

事業報告書

事業名	COVID-19 禍におけるアジア太平洋地域におけるネットワークの強化、キャパシティビルディングとアジア型ソーシャルワーク養成の研修プログラム開発及びシンポジウム開催事業																		
事業の実施状況	<p>1. 目的と獲得目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジア太平洋地域の各国ソーシャルワーカー団体の組織化の支援、人材ネットワークの構築 ・アジア太平洋地域におけるソーシャルワーカーの組織化およびコミュニティソーシャルワークを通じた COVID-19 禍における具体的支援策の検討 ・アジア太平洋地域における新型コロナウイルス感染拡大時の連携、COVID-19 禍収束後の地域支援、トラウマ、喪失に対するソーシャルワークの研修プログラム開発とリモート研修・訓練ならびにネットワーク体制の強化 ・日本を始めアジア太平洋地域からのソーシャルワーカーの交流およびネットワークを強化 <p>2. 事業計画・内容</p> <p>1) ソーシャルワークリーダーシップ養成の研修プログラム開発</p> <p>(1) この危機的状況下で必要とされるトラウマや、喪失に対するソーシャルワークの研修プログラムを開発、講義を配信した。</p> <p style="padding-left: 2em;">研修プログラムのテーマと講師は以下の通りである。</p> <p style="padding-left: 2em;">(各講義約 45 分、録画し、英日字幕をつけて動画配信を行う。)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">回</th> <th style="width: 60%;">テーマ</th> <th style="width: 35%;">講師</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>コロナ禍における世界のソーシャルワーカーの動き、各国の動き (総論)</td> <td>国際ソーシャルワーカー連盟 (IFSW) 事務局長 Rory Truell 氏</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>韓国のCOVID-19におけるSW支援と展開方法</td> <td>韓国ソーシャルワーカー協会 Daegu (テグ) 支部代表 Sug Pyo Kim氏 (韓国)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>トラウマ後の成長について 理論と方法</td> <td>日本社会事業大学 藤岡孝志教授 (日本)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td>COVID-19における家族支援と コミュニティ展開 (差別・偏見を意識、 権利擁護を含む支援の方法)</td> <td>シンガポールロータリー ファミリーサービス Amran Bin Jamil氏 (シンガポール)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td>COVID-19におけるイラン (西アジア) のSW活動</td> <td>イランソーシャルワーカー協会 会長 Dr. Seyed Hasan Mousavi 氏 (イラン)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 開発プログラムをオンデマンド配信として、日本ならびにアジア諸国に配信する。</p> <p style="padding-left: 2em;">COVID-19 禍の対応、COVID-19 禍収束後における地域エンパワメント、予防機能の強化に向けたコミュニティソーシャルワークの介入ス</p>	回	テーマ	講師	1	コロナ禍における世界のソーシャルワーカーの動き、各国の動き (総論)	国際ソーシャルワーカー連盟 (IFSW) 事務局長 Rory Truell 氏	2	韓国のCOVID-19におけるSW支援と展開方法	韓国ソーシャルワーカー協会 Daegu (テグ) 支部代表 Sug Pyo Kim氏 (韓国)	3	トラウマ後の成長について 理論と方法	日本社会事業大学 藤岡孝志教授 (日本)	4	COVID-19における家族支援と コミュニティ展開 (差別・偏見を意識、 権利擁護を含む支援の方法)	シンガポールロータリー ファミリーサービス Amran Bin Jamil氏 (シンガポール)	5	COVID-19におけるイラン (西アジア) のSW活動	イランソーシャルワーカー協会 会長 Dr. Seyed Hasan Mousavi 氏 (イラン)
回	テーマ	講師																	
1	コロナ禍における世界のソーシャルワーカーの動き、各国の動き (総論)	国際ソーシャルワーカー連盟 (IFSW) 事務局長 Rory Truell 氏																	
2	韓国のCOVID-19におけるSW支援と展開方法	韓国ソーシャルワーカー協会 Daegu (テグ) 支部代表 Sug Pyo Kim氏 (韓国)																	
3	トラウマ後の成長について 理論と方法	日本社会事業大学 藤岡孝志教授 (日本)																	
4	COVID-19における家族支援と コミュニティ展開 (差別・偏見を意識、 権利擁護を含む支援の方法)	シンガポールロータリー ファミリーサービス Amran Bin Jamil氏 (シンガポール)																	
5	COVID-19におけるイラン (西アジア) のSW活動	イランソーシャルワーカー協会 会長 Dr. Seyed Hasan Mousavi 氏 (イラン)																	

キルプログラムの開発は重要である。COVID-19 禍は、災害と同様の事態であり、この感染禍において、アジア全体のソーシャルワーカーの援助方法を開発することにより、援助の必要な人々に適切対応が可能になることならびにソーシャルワークの発展と技術向上につながることを目指したい。

2) シンポジウム

世界ソーシャルワークデー2021 企画「コロナ禍におけるアジア諸国のソーシャルワーク実践コミュニティ・レジリエンスとメンタルヘルス・ウェルビーイングのありかたを学ぶ」

<目的>

新型コロナウイルス感染拡大を受けて、生活行動様式の変化から生じた福祉的課題に対し、各国の地域のレジリエンスを促進するための、ソーシャルワークの展開のあり方や、メンタルヘルスの課題に対する対応を検討するためのシンポジウムを開催し、アジア全体の共通課題と対応方法などをシンポジウムには、主に(1)の研修プログラム開発に関わった講師がシンポジストとなり、オンラインシンポジウム (ZOOM ウェビナー) を開催した。

<参加者>

日本およびアメリカ、イギリス、ニュージーランド、バングラディシュ、韓国、シンガポール等より、登録者 264 名、当日 198 名が参加した。

3. 実施スケジュール

<2020 年>

10 月 企画委員会 (東京都内) 開催 (Zoom) (年度末まで 4 回程度開催)

研修プログラム開発概要決定、シンポジウム概要決定

11 月 ウェブサイト (IFSW-AP) によるシンポジウム開催案内 (アジア太平洋地域の各国ソーシャルワーカー協会への案内及び広報協力依頼)

<2021 年>

1 月 研修プログラムのツール完成 (動画編集・DVD 作成)

3 月 世界ソーシャルワークデーイベントとしてシンポジウム (オンライン) を開催

3 月 研修プログラム動画 (字幕) の編集、完成
報告書作成
貴センターへの助成事業完了報告書の提出

4. 実施体制

日本ソーシャルワーカー連盟 (JFSW) 国際委員会が中心となり、JFSW 国際関係サポーターの協力・参加を得て実施した。

1) 役割

プログラムの立案、開催地となるソーシャルワーカー団体との連絡調整等、プログラム実施支援 (統括)、実施後の総括、日本への周知

2) 実施体制 (*)

<企画委員: JFSW 国際委員会委員及び国際関係サポーター>

伊東 良輔 (一般社団法人ぱるむ/日本社会福祉士会)

森 恭子 (文教大学/日本社会福祉士会)

平田 美智子 (日本社会福祉士会)

	<p>木村 真理子（日本精神保健福祉士協会／IFSW-AP 元会長） 大橋 雅啓（東日本国際大学／日本精神保健福祉士協会） 小原 眞知子（日本社会事業大学／日本医療社会福祉協会） 上田 まゆら（医療法人社団青い鳥会／日本医療社会福祉協会） 坪田 まほ（日本医療社会福祉協会） 春見 静子（日本ソーシャルワーカー協会） ヴィラーク・ヴィクトル（長崎国際大学／日本ソーシャルワーカー協会） <事務局：4人> 坪松 真吾（日本精神保健福祉士協会事務局長／財務担当） 大仁田 映子（日本精神保健福祉士協会事務局員／財務担当） 荒木 千晴（日本社会福祉士会事務局員） 石塚 真吾（日本社会福祉士会事務局員）</p> <p>*委員会への出席に係る交通費は所属団体が負担し、遠方の委員においてはインターネットのビデオ通話機能（Skype、Zoom等）を利用して会議に参加した。</p>
<p>事業の成果</p>	<p>経験したことのない新型コロナウイルス感染拡大の中、生活行動様式の変化から生じた福祉的課題に対し、今回世界各地のソーシャルワーカーが課題にどのように対応したのか、各国の地域のレジリエンスを促進するための、ソーシャルワークの展開のあり方や、メンタルヘルスの課題に対する対応など、幅広い知見と経験を集約するとともに、多くの国内外のソーシャルワーカーと共有する機会を創出することができた。</p> <p>成果物としての研修プログラム開発「ソーシャルワークリーダーシップ養成の研修プログラム開発」においては、5つのテーマに関する約45分間の日英字幕付動画をウェブ上で視聴することが可能となったため、関心のあるソーシャルワーク関係者がどこからでも、それぞれの関心に合わせて、研修プログラム動画を視聴することが可能となった。</p> <p>シンポジウムにおいては、コロナ禍における各国のソーシャルワーク実践について、世界全体の状況、韓国、シンガポール、イランなどアジア各国の状況と実践内容について、研修プログラム動画の一部を紹介するとともに、世界各地からアクセスが可能なオンラインシンポジウム（Zoom ウェビナー）という形で無料・日英同時通訳付で実施することができた。</p> <p>オンラインシンポジウム（Zoom ウェビナー）の手法により、会場賃借料等は押さえて、集合形式で開催するより広範囲・多人数の参加者を得ることができ、より広範囲に本テーマについて知見の提供、経験交流を行うことができた。</p> <p>参加者アンケートからは「オンラインを通じてアジアの仲間と繋がり連携し、語り合うことはとても有意義」、「今回初めてのオンラインシンポジウムとして、各国の様子が伺えてとても良かった」、「通訳機能付きのオンラインシンポジウムに初めて参加。財政的にも、時間的にも、毎回会場に足を運ぶことが困難な地方に住んでおりますので、ぜひ今後も、このようなオンラインでの開催方法を継続していただきたい」など、オンライン・通訳機能付きでの国際シンポジウムについて高く評価し、今後の継続的な実施を望む声が多く寄せられた。シンポジウム開催後も、視聴を望む声も多く、講師・通訳者の了解を得て、日本ソーシャルワーカー連盟ウェブサイトにも、本シンポジウムの動画も掲載することとなった。</p> <p>これらの取組を通じ、各国を代表するソーシャルワーカーと協働によるプロジェクトの実施と成果物の共有を通じ、国を超えたソーシャルワーカー間</p>

	の交流とネットワークの構築にも繋がる機会となった。
--	---------------------------